

筆者と登る栃木百名山「日留賀岳」登頂

藤田 謙三

栃木県山岳連盟で

日留賀岳山頂にて

全員集合！



は、「栃木百名山ガイドブック」を発行して、十一年が経とうとしている。途中で一度部分改訂をしたが内容に大差ない。最近ガイドブックを執筆した当事者と一緒にその山に登り、その山の魅力を語り合い、楽しい登山の一時を過ごそうと「筆者と登る栃木百名山」を企画運営している。今年も7回ほどの計画があるが、その中の第三回目「日留賀岳」である。（第一回目羽賀場山、第二回目黒檜山）

黒羽山の会では、名誉会長が日留賀岳の

筆者であるので、平成28年度年間山行計画の中に定例山行行事として組み入れている。これは、この程実施された記録である。

る。

平成28年7月24日

（日）午前6時那須野が原ハーモニーホール駐車場出発。登山口の小山さん宅午前8時10分の開会式で始まり、栃岳連の自然保護指導委員長の手塚氏から本日の役員が紹介された。我が黒羽山の会から、藤田謙三執筆者、荒木・辺見・薄井・大金の5名が同行役を務める事となった。

間もなく登山口を出発。1班薄井、2班荒木、3班辺見の各班長のもと各班10名の班編制である。大金遊動隊が殿で、総勢38名である。山の規模と出発時刻を考えると、全員無事登頂出来るか不安が横切る。

1班から出発。薄暗い杉林の確りした登山道に入り、さらに道がU字型になった竹林に入った。ミズナラの雑木林になると小尾根に達する。ここはシラン沢への乗越である。尾根の高度を上げると下生えの無い綺麗な急斜面だ。ミズナラの純林で登行は順調に進む。ヒノキ林のジグザグに変わり更に尾根状の平坦地に出る。ここは東電の送電線鉄塔だ。一旦全員休憩。ここからは道の広いシラン沢林道でほぼ1km続く。ここから手山P1036までは等高線状の登路となり、気軽に歩く。中間の崩



小山宅前

開会式



30 余名の登山は壮観です

今はこの山を巻いてしまうので楽に歩ける。窪みのカーブに掛かると30余名の列が結構壮観である。この辺りのウダイカンバの純林がこの山の特徴である。乗越の最低鞍部からナタム口沢に向かって徐々に高度を上げてゆけば、手入れのき届かないカラマツの林となる。ナタム口沢沿いに登り



ウダイカンバ

落修復箇所から塩那スカイライン方面の稜線が仰がれる。特に送電線の垂れ下がった様子と鉄塔の場所の関係がダイナミックだ。シラン沢林道の終点、手山の広場で水飲み休憩。手山の上遙か遠くに日留賀岳が覗いているが、敢えて黙っている。

ナタム口沢乗越へのトラバースに掛かる。ミスナラ、クマシデの大木にホウノキの白い花が混じて、今までの林道歩き感覚と違った歩行が始まる。昔は比津羅山を縦走する登山路であったが、

になるが、カラマツの林が途切れる所までは、ふくべの曾根の方向にトラバースとなる。

やがて、ふくべの曾根取り付きで休憩。飲みたく無くても水分補給。殿の大金氏が直ぐ近くに顔を見せる。予めの弱い人は実は強い人だったのである。

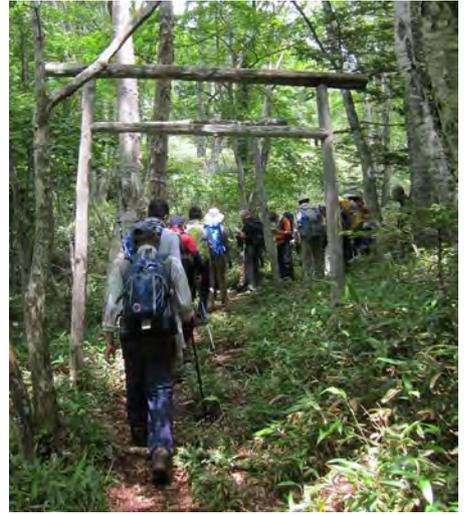
今度は、今日の最難登行。傾斜のキツイふくべの曾根直登となる。約300mの標高差は、諄い言い方だが、昔からの言い伝えで今回の登山最大の難所だ。トップ交代を頻繁に繰り返したのが良かったのか、前述の

疲労で困難な参加者も出ずに、アスナロの森に入る。アスナロの木は、檜の木を大ざっぱにした様な、檜葉を持ち、独特の裏の白い葉と赤味の強い滑らかな幹が特徴である。穏やかな森の佇まいかと思いきや、太く曲がりくねった大きな木の根、シグザグの段差歩きで時間が掛かり過ぎてしまった。

アスナロの樹林が、ダケカンバ、シナンキ、ハウチワカエデの古木とチシマササに変わるとアスナロの森の山頂である。高度は1500mを越えた。時計は12時に近い。日留賀岳の山岳の真髄はこれからである。しかし、参加者の姿は各自早朝食事のため、疲労と空腹が見られるようだ。二の鳥



これがアスナロ



二の鳥居を通過

居を越した、腹こしらえと疲労回復と決める。やや下りとなりスッカン沢乗越の適当な広場で昼食にした。

これからが本日登山の最高舞台に掛かるのだ。塩原にもこんな素晴らしい山があることを皆に実感して欲しい。シヤクナゲが出てきた。マグルマが出てきた。斜面も急になり尾根が太くなってシラン

日留賀岳南の肩を踏んだ。クロベが出現。山頂近し。シヤクナゲ・ハナノキ・コメツツシ、草原っぽい斜面にはクルマユリ・ハクサンフウロ・ミヤマコゴメグサ。全く高山だ。程なく最高点、日留賀岳に到達。三角点に全員タッチ。午後2時丁度には、全員到着してしまったのである。最初の計画では、参加者の中に比較的体力の弱い人がいるとの情報であったので、担当役員もそれなりの準備をしていたが、徒労に終わって目出度し目出度し。手元にガスが去来し天候の不安はあるが、下は雲も無く雨の心配もない。全員で写真を撮り、御影石の祠、祠の周りで山頂霧囲気を味わう。

帰りは、全員登頂の喜びが有頂点になり、足元の注意を怠りくれぐれも転倒の無きよう注意を促す。徒労感も余りなく、トップ交代を繰り返し、ふくべの曾根でセグロスズメバチにやられた人も居たが全員無事登山口(小山宅)に帰着したのである。上り5時間、下り4時間。ガイドタイムよりかなりオーバーしたが、全員さしたるトラブルも無く、結構眺めもあつたりして良かった結末であった。

マグルマが出てきた。斜面も急になり尾根が太くなってシランの霧囲気だ。海拔1700mを超えると森林限界の霧囲気。今日はこの辺りから上にはガスが纏わり付いて時々視界を遮る。会津側はガスの際間があるのに、栃木側は雲の中の感じ。風を食べみっちり体力の参加者は、誰一人弱音をはかない。トップ交代で小まめな休憩が功を奏したのか、登行がスムーズに捗るので有難い。



ガスが.....



ミヤマカラマツ



カニコウモリ

- と き 平成28年7月24日(日)
- ところ 日留賀岳(△1,848.8m) 栃木百名山
- 参加者 黒羽山の会 藤田、薄井、荒木、辺見、大金  
 栃岳連自保委 手塚、奈良、佐藤  
 一般参加者 30名
- コースタイム  
 登山口—鉄塔—手山—ふくべの曾根—  
 8:00~30 9:00 9:45 10:40  
 あすなろの森—シラン沢乗越(昼食)  
 11:00 12:00~30  
 日留賀岳山頂—登山口  
 14:00~30 18:00



ツチアケビ



本日のスタッフの面々

筆者は旗の中央